



＜IR説明会資料＞

KOBELCO
神戸製鋼グループ

2018年度 第1四半期決算及び業績見通しについて

2018年8月1日
株式会社 神戸製鋼所
常務執行役員
河原 一明





報告事項

1. 2018年度第1四半期決算
2. 2018年度業績見通し
3. 財務戦略
4. 参考情報



1. 2018年度第1四半期決算



ECO WAY

2018年度決算 第1四半期実績

(単位：億円)

	2017年度	2018年度	差異
	1Q	1Q	対前年
売上高	4,350	4,783	+433
営業損益	303	138	△164
経常損益	282	127	△155
(在庫評価影響を除く)	(182)	(92)	(△90)
特別損益	※1 67	※2 39	△28
親会社株主に帰属する 四半期純損益	250	126	△123

※1 投資有価証券売却益 67億円

※2 子会社化関連損益 39億円
(神鋼鋼線工業子会社化)



ECO WAY

第1四半期 セグメント別売上高・経常損益

(単位：億円)

売上高	2017年度	2018年度	差異	経常損益	2017年度	2018年度	差異
	1Q	1Q	対前年		1Q	1Q	対前年
鉄鋼	1,744	1,791	+46	鉄鋼	130	8	△122
溶接	194	197	+2	溶接	11	5	△6
アルミ・銅	889	931	+42	アルミ・銅	61	24	△37
機械	303	442	+139	機械	2	10	+7
エンジニアリング	190	250	+59	エンジニアリング	3	4	+1
建設機械	875	1,013	+138	建設機械	39	75	+35
電力	139	140	+0	電力	24	△0	△25
その他	133	145	+11	その他	10	6	△4
調整額	△120	△129	△9	調整額	△3	△6	△2
合計	4,350	4,783	+433	合計	282	127	△155



ECO WAY

2. 2018年度業績見通し



ECO WAY

2018年度 業績見通し

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
売上高	18,811	9,600	10,300	19,900	10,000	10,300	20,300	+400
営業損益	889	150	400	550	200	350	550	—
経常損益	711	50	300	350	100	250	350	—
（在庫評価影響を除く）	(561)	(40)	(290)	(330)	(75)	(245)	(320)	(△10)
特別損益	20	300	-	300	※ 339	-	※ 339	+39
親会社株主に帰属する 当期純損益	631	250	200	450	300	150	450	—

※ 子会社化関連損益（神鋼鋼線工業子会社化） 39億円
 投資有価証券売却益（神鋼不動産株式一部売却） 300億円



ECO WAY

2018年度 セグメント別 売上高

(単位：億円)

売上高	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
鉄鋼	7,155	3,700	3,800	7,500	3,650	3,750	7,400	△100
溶接	805	400	420	820	400	420	820	—
アルミ・銅	3,495	1,900	1,950	3,850	1,900	1,950	3,850	—
機械	1,613	880	990	1,870	890	950	1,840	△30
エンジニアリング	1,228	560	910	1,470	580	920	1,500	+30
建設機械	3,645	1,900	1,950	3,850	2,150	1,950	4,100	+250
電力	721	360	370	730	350	360	710	△20
その他	688	190	250	440	240	200	440	—
調整額	△543	△290	△340	△630	△160	△200	△360	+270
合計	18,811	9,600	10,300	19,900	10,000	10,300	20,300	+400



ECO WAY

2018年度 セグメント別 経常損益

(単位：億円)

経常損益	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
鉄鋼	173	30	100	130	0	30	30	△100
溶接	49	15	30	45	15	25	40	△5
アルミ・銅	118	0	20	20	5	15	20	—
機械	23	25	50	75	15	40	55	△20
エンジニアリング	69	△5	50	45	5	40	45	—
建設機械	219	125	85	210	140	100	240	+30
電力	79	△50	30	△20	△50	30	△20	—
その他	54	△10	40	30	5	35	40	+10
調整額	△75	△80	△105	△185	△35	△65	△100	+85
合計	711	50	300	350	100	250	350	—



ECOWAY

配当について

■ 当期の配当について

継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。これに基づき、当期の中間配当につきましては、1株につき10円とする方針を決議いたしました。

■ 配当性向

当面、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の**15%～25%**を目安としております。

■ 配当実績

	2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間 (予想)	期末	
配当金額 (¥/株)	2.0	2.0	4.0	2.0	-	2.0	-	-	-	-	30.0	30.0	10.0	未定	-
配当性向			16.8%			-			-			17.2%			

※2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。



ECO WAY

【鉄鋼】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見直し）			2018年度（今回見直し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
売上高	7,155	3,700	3,800	7,500	3,650	3,750	7,400	△100
経常損益	173	30	100	130	0	30	30	△100
(内在庫評価影響)	(90)	(0)	(10)	(10)	(0)	(5)	(5)	(△5)

2018年度の状況

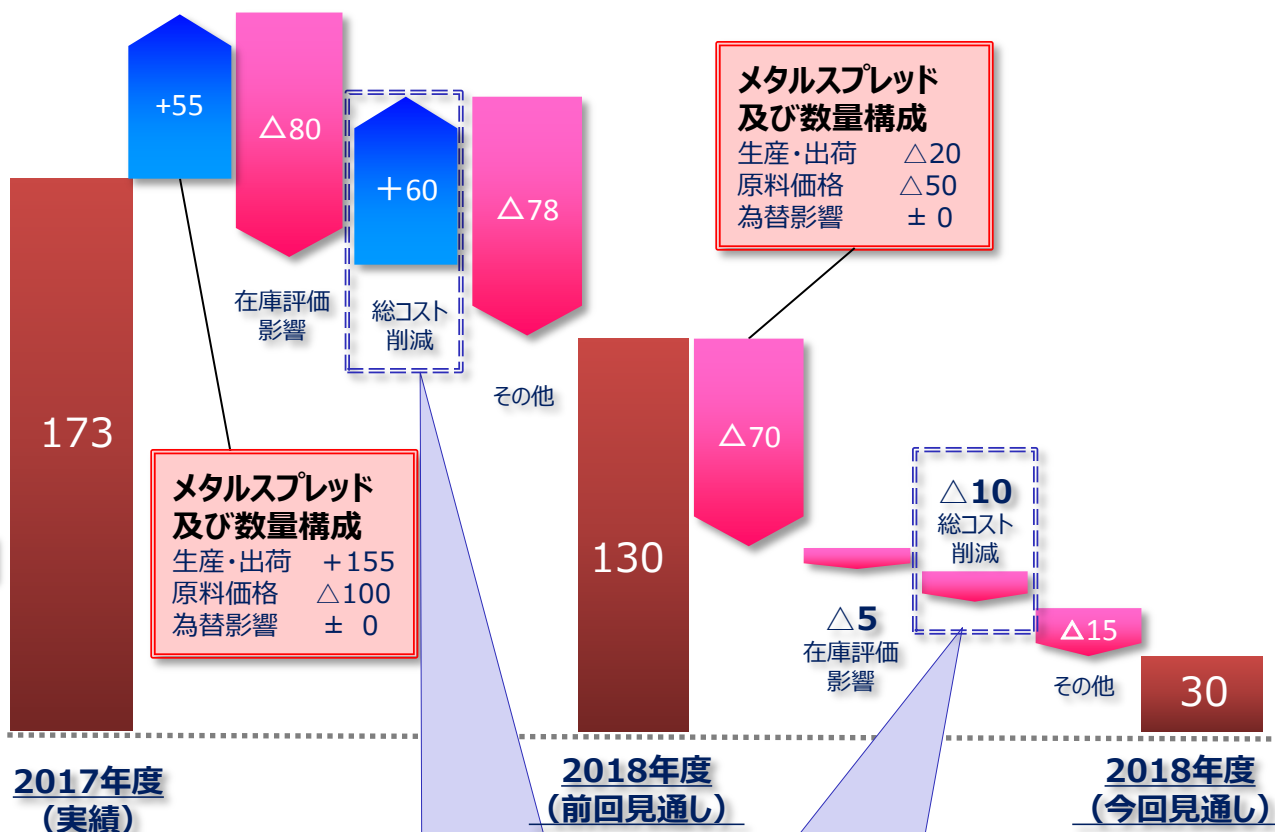
- 加古川製鉄所への上工程集約などによる収益改善策は着実に遂行中。
- 一方、7月中旬に発生した焼結鉱の生産設備の一過性トラブル等による鋼材販売量の減少に加え、副原料価格・物流費上昇の影響なども想定せざるを得ない状況から減益を見込む。
- 尚、中期経営計画に基づく成長戦略への取組みとしては、今後の自動車用超ハイテンの需要拡大に対応するため、加古川製鉄所の薄板工場において、連続焼鈍設備の新設を中心とした設備の建設工事に着手済み。（詳細はP.35をご参照下さい）



ECO WAY

【鉄鋼】経常損益 増減要因

(単位：億円)



金属材料スプレッド 及び数量構成

生産・出荷	+155
原料価格	△100
為替影響	± 0

金属材料スプレッド 及び数量構成

生産・出荷	△20
原料価格	△50
為替影響	± 0

17⇒18年度:主なコスト変化要因

上工程集約効果	+85
追加収益改善策	+85
他のコスト変化	△110

合計
+60億円

18年度 (前回) ⇒18年度 (今回) :

主なコスト変化要因

上工程集約効果	± 0
追加収益改善策	△ 5
他のコスト変化	△ 5

合計
△10億円

製鉄所上工程の集約

(収益改善効果 +150億円/年)

関連設備の立ち上げなど計画通り完了。17年11月に新体制に移行済み。

2017年度	+ 65 (実績)
2018年度	+150 (見込)
合計	+85

追加収益改善策

(5カ年累計 +300億円)

設備投資や生産現場レベルでのコスト削減、原料調達コスト削減により、順調に進捗。

16年度	+ 85 (実績)
17年度累計	+180 (実績)
18年度累計	+260 (見込)
合計	+80
20年度累計	+300 (計画)



ECOWAY

【鉄鋼】生産・販売状況

	2017年度				2018年度	2018年度	
	1Q	上期	下期	年度	前回 年度見通し	1Q実績	年度
全国粗鋼 (万t)	2,610	5,204	5,280	10,484	/	2,657	/
全国在庫水準 (万t)	556	570	583	--		581	
薄板3品在庫水準 (万t)	408	415	421	--		430	
国内自動車生産台数 (万台)	230	237	467	968		150	

<当社>

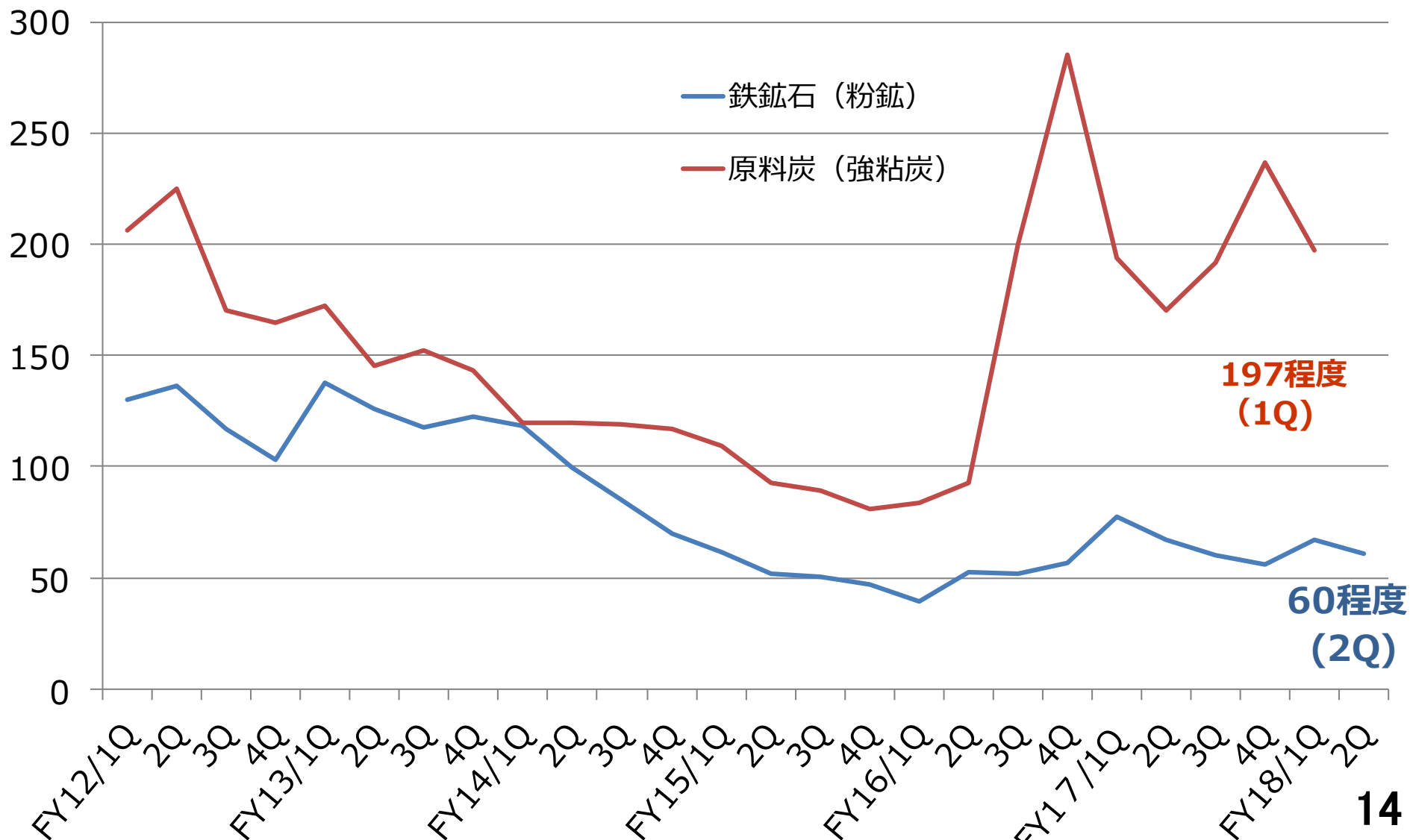
粗鋼生産 (万t)	194	394	352	746	700程度	172	690程度
鋼材販売量 (万t)	152	304	293	597	590程度	139	570程度
(内 国内)	(111)	(223)	(212)	(435)		(104)	
(内 海外)	(41)	(81)	(81)	(162)		(35)	
鋼材販売単価 (千円/t)	80.8	81.5	81.5	81.5		83.5	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	27.1%	26.4%	28.0%	27.2%		25.9%	



ECO WAY

【鉄鋼】鉄鉱石と原料炭 価格推移

(単位：\$/トン)

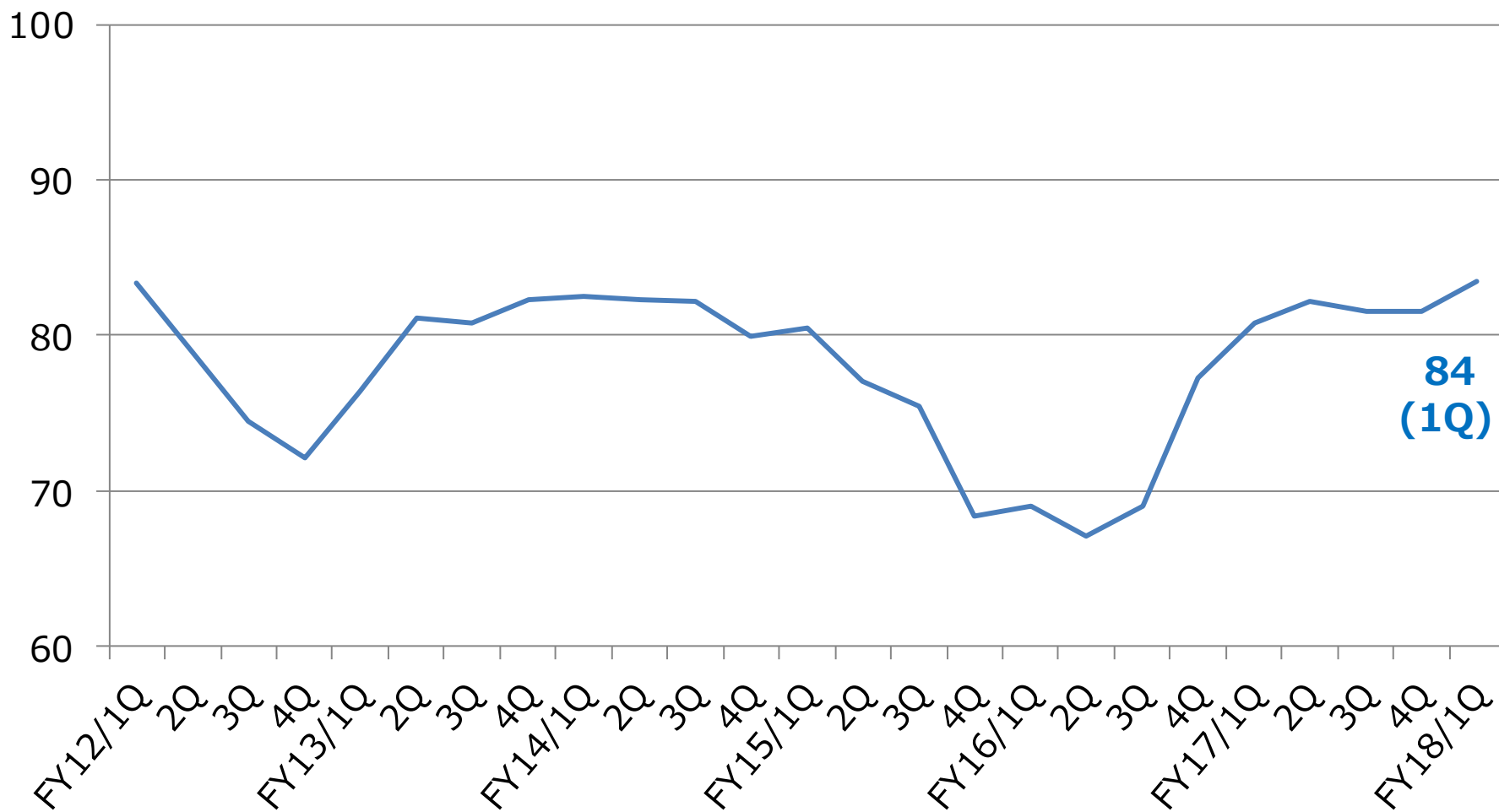




ECO WAY

【鉄鋼】鋼材単価の推移

(単位：千円/トン)





ECO WAY

【溶接】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	805	400	420	820	400	420	820	—
経常損益	49	15	30	45	15	25	40	△5

<当社の販売状況（溶接材料）>

(単位：千t)

	2017年度				2018年度	2018年度	
	1Q	上期	下期	年度	前回 年度見通し	1Q実績	年度見通し
国内	33	65	63	128	295程度	29	295程度
海外	40	79	83	162		42	
合計	73	144	146	291		71	

2018年度の状況

- 溶接材料の販売数量は、中国のエネルギー分野における需要の増加や東南アジア新興国向けの拡販により、前回想定並みを見込む。
- 損益については、原材料のコストアップなどにより減益を見込む。



ECOWAY

【アルミ・銅】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	3,495	1,900	1,950	3,850	1,900	1,950	3,850	—
経常損益	118	0	20	20	5	15	20	—
(内在庫評価影響)	(60)	(10)	(0)	(10)	(25)	(0)	(25)	(+15)

<当社の販売状況>

(単位：千t)

	2017年度				2018年度	2018年度	
	1Q	上期	下期	年度	前回 年度見通し	1Q実績	年度見通し
アルミ圧延品 国内	78	153	132	285	285程度	72	285程度
輸出	22	40	38	78	80程度	20	80程度
銅圧延品	37	71	70	142	145程度	38	145程度

2018年度の状況

- アルミ圧延品、銅圧延品の販売数量は、自動車や半導体向けの需要が引き続き堅調に推移する見込みであり、前回想定並みを見込む。
- 製品の一部に対する不適切行為による影響を引き続き一定程度織り込み、前回並みの損益を見込む。



ECO WAY

【機械】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	1,613	880	990	1,870	890	950	1,840	△30
経常損益	23	25	50	75	15	40	55	△20
受注高	1,511	—	—	1,650程度	—	—	1,650程度	—

2018年度の状況

- 受注高は、中国における石油精製分野の圧縮機の需要回復や、アジア・中東におけるアフターサービス事業の拡大により、前回想定並みを見込む。
- 損益については、案件構成差などにより減益を見込む。



ECO WAY

【エンジニアリング】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見直し）			2018年度（今回見直し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	1,228	560	910	1,470	580	920	1,500	+30
経常損益	69	△5	50	45	5	40	45	—
受注高	1,192	—	—	1200程度	—	—	1,200程度	—

2018年度の状況

- 受注高は、廃棄物・水処理施設を中心に前回想定通りの水準を見込む。
- 損益については、既受注案件の順調な進捗により、前回想定並みを見込む。



ECO WAY

【建設機械】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	3,645	1,900	1,950	3,850	2,150	1,950	4,100	+250
経常損益	219	125	85	210	140	100	240	+30

2018年度の状況

- 中国における油圧ショベルの需要が、堅調なインフラ投資に支えられ前回想定を上回るかたちで推移していることに加え、機種構成の改善などから増益を見込む。
- 尚、中国における建機事業については、中国側出資者との合併を解消するとともに、製販一体の事業会社に集約することで、事業の再構築が概ね完了した。（詳細はP.36をご参照下さい）



ECO WAY

【電力】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見直し）			2018年度（今回見直し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	721	360	370	730	350	360	710	△20
経常損益	79	△50	30	△20	△50	30	△20	—

2018年度の状況

- 新規プロジェクトの資金調達に伴う一過性の費用が発生することで経常損益が損失となるのは前回想定通り。
- 尚、神戸製鉄所の高炉跡地に建設する新規発電プロジェクトについては、環境アセスメントが、評価書の縦覧をもって本年6月25日に完了。（関連情報はP.37をご確認下さい）



3. 財務戦略



ECO WAY

【財務戦略】

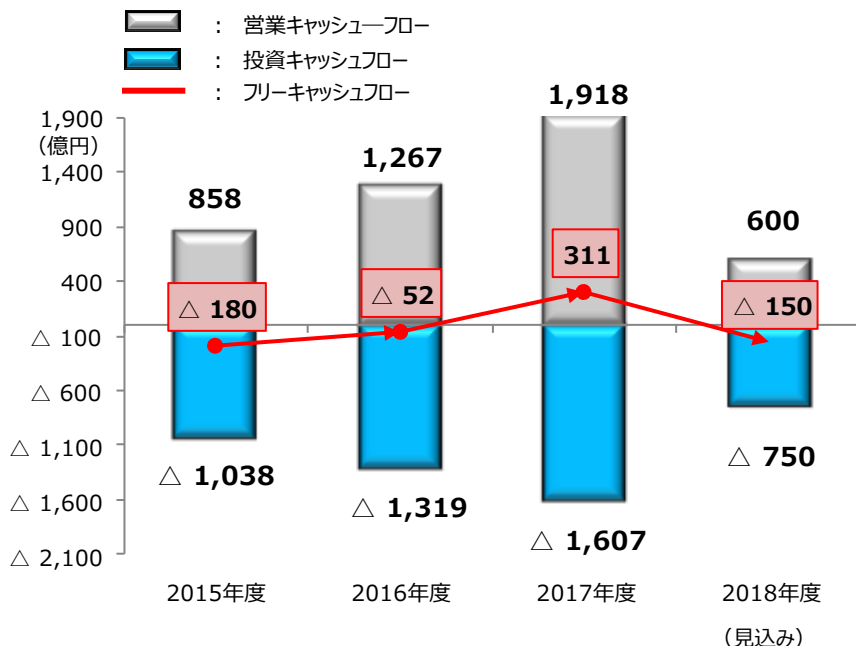
基本方針

- 素材系・機械系事業の成長に向けた大型戦略投資、及び事業基盤を支える定常投資は、原則として事業キャッシュフローにて賄う
- **D/Eレシオ 1倍以下を堅持**

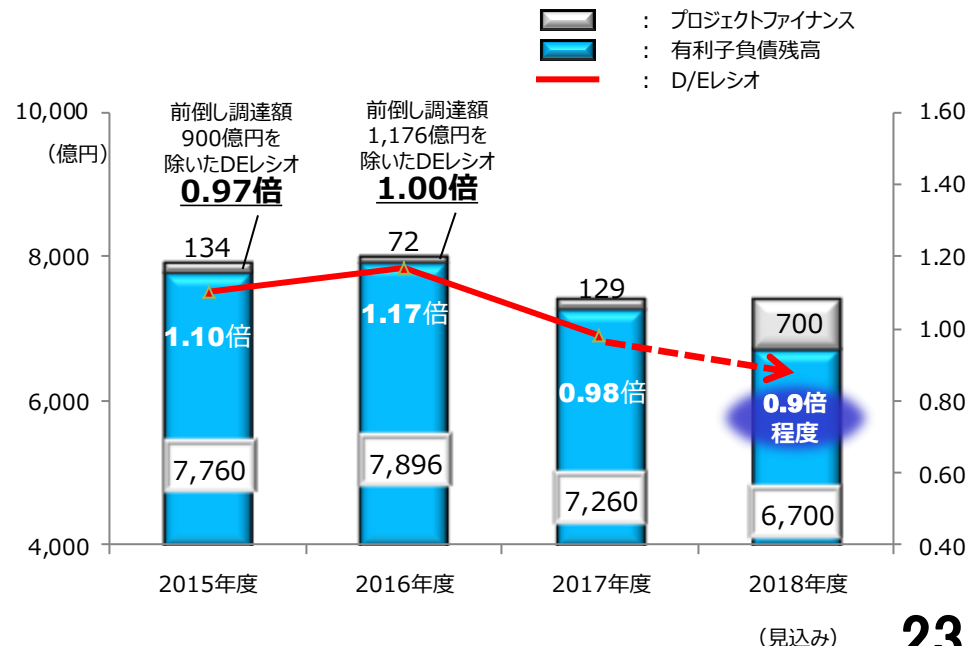
キャッシュ対策

- 財務規律を維持しながら着実に成長投資を実施すべく、**1,000億円規模のキャッシュ対策**を実施中
- ✓ 16～18年度実施済みキャッシュ対策
 運転資金改善190億円、資産・事業売却910億円等
 合計 約1,100億円

《フリーキャッシュフロー》



《有利子負債残高・D/Eレシオ》





4. 参考情報



ECO WAY

【フリーキャッシュフロー】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度 (前回見直し)	2018年度 (今回見直し)			差異
	実績	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前年 ②－①
営業キャッシュフロー	1,918	600	150	450	600	—
投資キャッシュフロー	△1,607	△700	△50	△700	△750	△50
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	311	△100	100	△250	△150	△50
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	292	△250	0	△300	△300	△50
プロジェクトファイナンス除く 現金残高	1,582	950	1,500	950		—



ECOWAY

【設備投資の状況】

(単位：億円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 見通し
設備投資<計上>	1,099	1,602	1,286	1,450
対減価償却費	116%	167%	126%	145%
設備投資<支払い>	991	1,389	1,366	1,550
対減価償却費	105%	144%	134%	155%
減価償却費	948	962	1,020	1,000



ECOWAY

【財務指標】

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 見通し
R O S ※1	1.6%	△1.1%	3.8%	1.7%
1株あたり当期純利益 ※2	△59.34円	△63.54円	174.43円	124.22円
D / E レシオ ※3	※4 1.10倍	※5 1.17倍	0.98倍程度	0.9倍程度
R O A ※6	1.3%	△0.8%	3.1%	1.5%
R O E ※7	△2.9%	△3.4%	8.9%	5.9%

※1：売上高経常利益率

※2：当社は2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。
2015年度以前も株式併合を前提として算定

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本（15年度は株主資本）

※4：2016年度分借入金の前倒し調達（900億円）含む
前倒し調達除く2015年度D/Eレシオ：0.97倍

※5：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む
前倒し調達除く2016年度D/Eレシオ：1.00倍

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2017年度1Q⇒2018年度1Q)

(単位：億円)

	2017年度			2018年度		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
経常損益	130	53	184	8	△8	0

△ 122

増益要因			減益要因		
総コスト削減	+	5	生産・出荷	△	30
為替影響	+	10	原料価格	△	20
			在庫評価影響	△	55
			連結子会社・持分法	△	15
			その他	△	17
合計	+	15	合計	△	137

※2018年度より、「全社 差異分析」は省略させていただきます。



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2017年度⇒2018年度)

(単位：億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	184	△10	173	0	30	30

△ 143

増益要因			減益要因	
生産・出荷	+	135	原料価格	△ 150
総コスト削減	+	50	在庫評価影響	△ 85
為替影響	±	0	連結子会社・持分法	△ 5
			その他	△ 88
合計	+	185	合計	△ 328



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2018年度 前回見通し⇒今回見通し)

(単位：億円)

	2018年度 (前回見通し)			2018年度 (実績)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	30	100	130	0	30	30

△ 100

増益要因			減益要因		
為替影響	±	0	生産・出荷	△	20
連結子会社・持分法	±	0	原料価格	△	50
			総コスト	△	10
			在庫評価影響	△	5
			その他	△	15
合計	±	0	合計	△	100



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2018年度 上期⇒下期)

(単位：億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	184	△10	173	0	30	30

+ 30

増益要因			減益要因	
生産・出荷	+	10	連結子会社・持分法	△ 10
原料価格	+	10		
総コスト削減	+	10		
在庫評価影響	+	5		
為替影響	±	0		
その他	+	5		
合計	+	40	合計	△ 10



ECOWAY

製品の一部に対する不適切行為に関する再発防止策の徹底

当社グループにおける不適切行為に関しまして、お客様、お取引先様、株主様そのほか多数の皆様にご迷惑をお掛けしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。

今回の品質問題に対する当社の責任を果たし、再び「信頼」していただける会社に生まれ変わるために、私共は、「ものづくりの原点」に立ち返り、確かな品質こそが「信頼」の核心であることを改めて心に刻み、不退転の決意を持って再発防止に努めてまいります。

再発防止策の全容

I.ガバナンス面
「品質ガバナンスの構築」

II.マネジメント
面
「品質マネジメントの
徹底」

III.プロセス面
「品質管理プロセス
の強化」

本社事務局
が主導
し推進

外部品質
監督委員
会

進捗状況を
定期的に
取締役会へ
報告

再発防止策の進捗状況については、以下をご参照下さい。

<http://www.kobelco.co.jp/progress/relapse-prevention/index.html>



ECO WAY

安全性検証の進捗状況

過去1年分を対象とした当社グループの自主点検及び外部調査委員会による調査の結果、検出いたしました不適合製品を納入したお客様、また、直接の納入先以外のお客様の製品において、即時使用を停止する、または、直ちに製品を回収することが必要であると判明した事案は現時点において確認されておりません。

(2018年5月18日現在)

大分類	会社名	部材	主な用途	2017年10月26日公表		外部調査委員会設置 (2017年10月26日)以降	
				お客様数	安全性検証	お客様数	安全性検証
アル ミ・銅	(株) 神戸製鋼所 アルミ・銅事業部門	アルミ板	缶材,自動車	57	57	7	7
		アルミ鋳鍛造部品	航空機,鉄道車両	67	67	4	4
		アルミ押出品	自動車,鉄道車両	34	34	-	-
		銅板	半導体,端子	38	38	2	2
	(株) コベルコマテリアル銅管	銅管	空調	23	23	88	88
	神鋼メタルプロダクツ (株)	銅合金管モールド	電機,製鉄機械	176	176	29	28
	神鋼アルミ線材 (株) Kobelco & Materials Copper Tube (M) Sdn. Bhd. Kobelco & Materials Copper Tube (Thailand) Co., Ltd. 蘇州神鋼電子材料有限公司	銅管,銅板条,アルミ線材	空調/端子	36	36	-	-
真岡総合サービス (株)	アルミ板	材料試作	-	-	1	1	
その他	(株) コベルコ科研	ターゲット材,試作合金	FPD,光ディスク,試作合金	70	70	14	14
		腐食分析	腐食分析				
	(株) 神戸製鋼所 鉄鋼事業部門 鉄粉本部	鉄粉	焼結部品	1	1	-	-
	日本高周波鋼業 (株) 神鋼鋼線ステンレス (株) 江陰法爾勝杉田弹簧製線有限公司 神鋼新碓弹簧鋼線 (佛山) 有限公司	鋼線 ステンレス線 熱処理	軸受 ばね	22	22	-	-
	神鋼鋼板加工 (株)	厚板加工	厚板加工品	1	1	-	-
	(株) カムス	熱処理	熱処理	-	-	1	1
	(株) 神戸製鋼所 機械事業部門	機械	産業機械,汎用圧縮機	-	-	10	10
	神鋼造機 (株)	機械	産業機械	-	-	3	3
	(株) 神鋼環境ソリューション	水分析	水分析	-	-	4	4
					525※	525	163※

※2017年10月26日公表のお客様525社と外部調査委員会設置以降にあらたに判明した不適切行為に係るお客様163社は、いずれものべ数です。



ECO WAY

【3本柱の事業成長戦略】中期計画の進捗状況**素材****I 輸送機軽量化への取組み**

自動車軽量化戦略概要（2017年5月説明会資料をご参照下さい）

http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2017/files/170526.pdf

II 鉄鋼事業の収益力強化

加古川製鉄所への上工程設備集約を完了
追加収益改善策を順調に実行中

機械**I エネルギー・インフラ分野への取組み**

機械事業拡大に向け順調に進捗

II 建設機械事業の収益力強化

中国ショベル事業再構築が概ね完了

<https://www.kobelcocm-global.com/jp/news/2018/180625/index.html>

電力**電力供給事業の安定収益化への取組み**

既存・新規 プロジェクト概要（2017年1月説明会資料をご参照下さい）

http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2016/files/170111.pdf



ECO WAY

加古川製鉄所における自動車用ハイテンの生産設備投資について

(2018年4月4日公表)

- 厳しさを増す燃費規制と衝突安全規制への対応のため、自動車メーカーは「車体の軽量化と高強度化」を推進しており、当社は、今後の自動車用超ハイテンの需要拡大に対応するため、新たに連続焼鈍設備を中心とした設備投資を決定、建設に着手。

➤ 設備投資の概要

- ✓ 対象設備：【新設】連続焼鈍設備・リコイラー・その他付帯設備
【増強】PTCM設備（酸洗および冷間圧延の連続ライン）・構内物流設備
- ✓ 生産能力：年間24万トン
- ✓ 投資額：約500億円
- ✓ 稼働開始：2021年2月
- ✓ 主要製品：自動車用超ハイテン（冷延および溶融亜鉛めっき）
※超ハイテン＝強度（TS） \geq 780MPa
- ✓ 投資目的：
 - ・自動車用ハイテンの需要拡大を見据えた生産能力の拡大と生産性向上
 - ・将来的な更なる高強度化、高加工性ニーズへの対応



➤ 設備投資の特長と意義

- ✓ 最新鋭の熱処理機能を有した連続焼鈍設備
- ✓ 冷延鋼板および溶融亜鉛めっき鋼板において、お客様のニーズに即した高加工性超ハイテンの生産が可能に

日・米(プロテック社)での高加工性超ハイテンの同時生産を可能に



ECO WAY

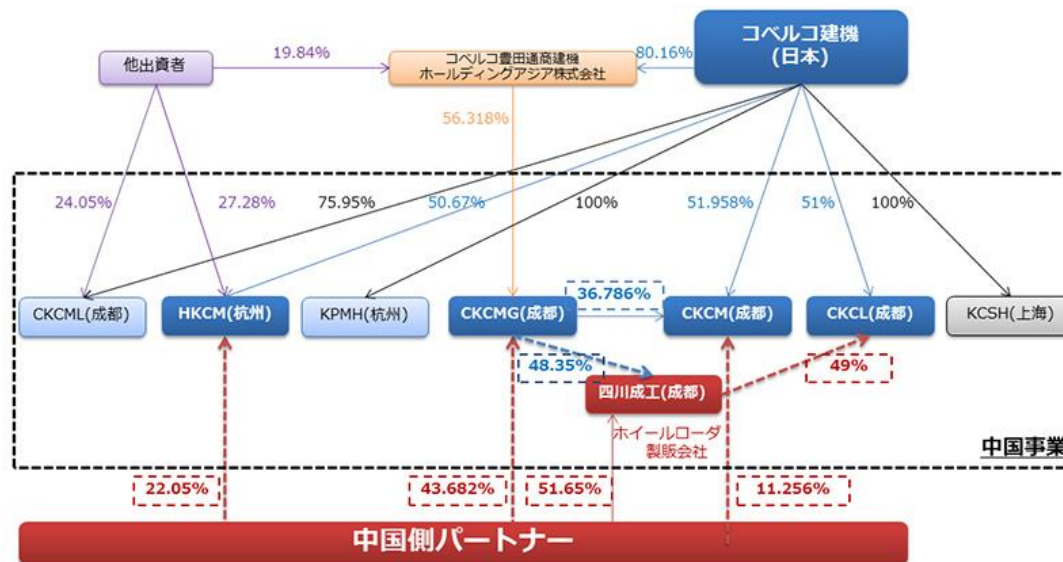
中国ショベル事業の再構築

(2018年6月25日公表)

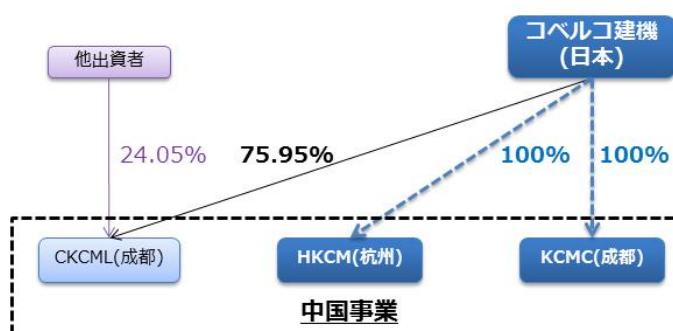
- 中国側パートナーとの合併を2017年10月に解消し、日本側主導での中国ショベル事業の再構築が概ね完了。製販一体の事業体で迅速かつ効率的な事業運営と、強固な現地販売ネットワークの構築を目指す。

組織再編前の構成

(2017年3月末時点)



組織再編後の構成



社名	所在地	事業内容
神鋼建機 (中国) 有限公司 (KCMC)	成都	油圧ショベルの生産ならびに販売・サービス
杭州神鋼建設機械有限公司 (HKCM)	杭州	油圧ショベルならびにコンポーネント部品の生産
成都神鋼建機融資租賃有限公司 (CKCML)	成都	建設機械のリース事業

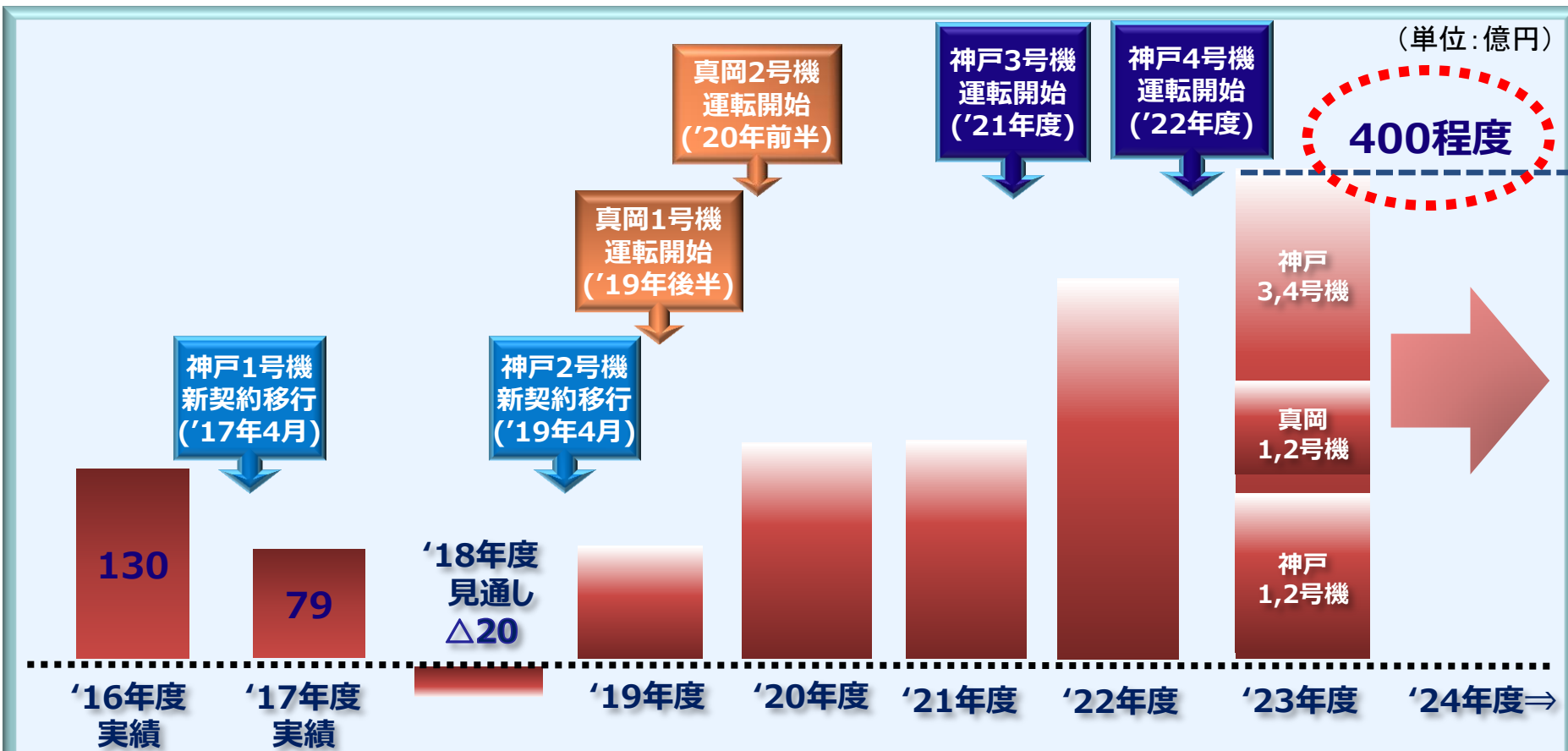
- ✓ 杭州にあるHKCMを存続会社とし、KPMHを吸収合併（2018年5月1日）
- ✓ KCMCを存続会社とし、CKCMおよびCKCLを吸収合併（2018年7月1日）
- ✓ なお、中国におけるクレーンの生産は2016年3月31日をもって終了
- ✓ 上海にあるKCSHを清算（2018年度中の完了を予定）
- ✓ 中国におけるクレーンの販売・サービスは、代理店を活用して当社が直接実施



ECO WAY

電力供給事業の安定収益化への取組み

➤ 神戸3,4号機は、環境アセスメントが完了（2018年6月25日）



※上記は電力セグメントの経常損益推移のイメージ。

※各年度業績イメージにはΔ20~30億円程度の本社費を含む。

また、新規プロジェクト立上げ迄の間は、先行費用等の一時費用の発生を見込む。



ECO WAY

【素材】 輸送機軽量化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
自動車	特殊鋼・普通鋼線材圧延・販売合弁会社 (Kobelco Millcon Steel Co., LTD)	タイ	海外初の線材圧延拠点 拡大が見込まれる東南アジアの自動車生産需要を捕捉	2015年9月 普通鋼製造開始 2017年5月 特殊鋼製造設備設置完了
	CHワイヤー（鋼線）の製造・販売合弁会社 (Kobelco CH Wire Mexicana, S.A. de C.V.)	メキシコ	現地自動車部品メーカーへ品質に優れた製品を迅速に納入	2016年1月 稼働開始
	自動車用冷延ハイトン製造・販売会社 (鞍鋼鋼冷延高張力自動車鋼板有限公司)	中国	中国での環境対応への取組み強化 日・米・欧・中での「薄板ハイトンのグローバル供給体制」整備	2016年2月 稼働開始
	自動車パネル用アルミ板材製造・販売会社 (神鋼汽車鋁材（天津）有限公司)	中国	日系アルミ圧延メーカー初の中国におけるパネル材生産拠点	2016年4月 稼働開始
	自動車向けアルミ押出材製造・販売会社 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国での燃費規制への対応強化 日・米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制確立	2016年8月 建設開始 2017年12月 量産開始
	高生産性ホットスタンプ用鋼板の量産	-	プレスの生産性に優れたホットスタンプ用冷延鋼板を開発、トヨタ自動車（株）プリウス向けのボディ骨格部品を受注、量産。	2016年 量産開始
	自動車ソリューションセンター新設	-	技術開発本部内に「自動車ソリューションセンター」を新設。全社自動車プロジェクト担当役員を新たに配置し、意思決定の迅速化と当社独自のソリューション提案力の強化を図る。	2017年4月 新設
	自動車サスペンション用アルミ鍛造工場生産設備の増強 (Kobe Aluminum Automotive Products, LLC)	米国	北米のアルミ鍛造サスペンションの更なる需要拡大に対応 日系自動車メーカーのみならず、米国自動車メーカー車種の採用拡大を見込む	2018年秋 順次稼働開始
	Novelisとの韓国でのアルミ合弁会社の設立 (Ulsan Aluminum Ltd.)	韓国	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 アジアにおける母材の安定的な生産・供給能力を確保	2017年9月 設立
	真岡製造所におけるアルミパネル材製造設備の増強	日本	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 高品質のアルミパネル材を安定的に供給する体制を構築	2017年度中 建設着工 2020年1月 稼働開始予定
	北米における自動車用溶融亜鉛めっき超ハイトン生産設備の増設 (PRO-TEC Coating Company, LLC)	米国	北米における自動車用ハイトン鋼板の需要拡大に対応 溶融亜鉛めっきでも高加工性超ハイトンの生産が北米で可能に	2019年7月 稼働開始予定
	加古川製鉄所における自動車用ハイトン鋼板の生産設備投資	日本	今後の自動車用超ハイトン鋼板の需要拡大、高強度化、高加工性ニーズに対応 日米での高加工性超ハイトン鋼板の同時生産を実現	2021年2月 稼働開始予定
異種金属接合用ロボットシステムの共同開発	-	神戸製鋼が考案した、超ハイトン鋼板とアルミを接合できる異種金属接続法「エレメントアークスポット溶接法（EASW）」と、ファナック（株）の持つロボット、エンジニアリング、およびセンサー技術を活用したロボットシステムを開発、実用化を目指す。		



ECO WAY

【機械】 エネルギー・インフラ分野への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
圧縮機	新型オイルフリー式汎用空気圧縮機の販売開始	—	世界最高クラスのエネルギー効率と低騒音を実現	2016年10月 販売開始
	米国向け水素ステーション用All in oneコンパクトパッケージ「HyAC mini-A」の開発・販売開始	米国	米国の定置式水素ステーション向けに高圧水素圧縮機、冷凍機、蓄圧器、ディスプレイをセットにした「HyAC mini-A」の販売を開始。海外水素ステーション向けに水素圧縮機等を販売するのは日本企業では初。	2017年2月 販売開始
	北海道洞爺湖温泉向けバイナリー発電システムの納入	日本	洞爺湖町地熱利用発電設備導入事業向けに、高効率・小型バイナリー発電システム一式を納入	2017年3月 納入
	非汎用圧縮機用 大型試運転設備の完成	日本	世界最大級となる40MW可変速モータを使用した試運転が可能となり、大型ターボ圧縮機市場への参入条件が整う。特に、当社優位性のあるアジア市場への取り込みに注力。	2017年4月 設備完成
	非汎用圧縮機事業 フィリピン新会社設立 (Kobelco Machinery Philippines Inc.)	フィリピン	指導員派遣機能とエンジニアリング機能を統合した新会社を設立。非圧縮機事業のグローバル展開を加速させるとともに、「SVの増強」と「エンジニアリング業務の最大効率化」を図る。	2017年2月 設立 2017年4月 営業開始
産業機械	等方圧加圧装置世界トップメーカーQuintus Technologies ABの買収	スウェーデン	航空機部品や発電用タービンブレード、半導体関連素材など高機能製品に幅広く適用される等方圧加圧装置（IP装置）のトップメーカーであるQuintus社を買収。産業機械事業の高収益化に向け、IP装置メニューを強化。	2017年4月 買収
建設機械	国内向け超大型クローラクレーンの開発・販売開始（最大つり上げ能力1,250トン）	—	超大型クローラクレーン需要の高まりに対応した国産最大級クローラクレーンの供給	2016年5月 販売開始
エンジニアリング	エネルギー回収型ごみ処理施設運営事業を受注	日本	当社初の流動床式ガス化燃焼炉採用 次世代型焼却炉で施設のコンパクト化、発電量の最大化、環境負荷軽減に貢献	2016年6月 受注 2016年～2019年 設備建設 2019年～2039年 設備運営
	広域ごみ処理施設整備・運営事業を受注	日本	幅広いごみ質に対応し、安全・安定燃焼を実現するストーカ式燃焼炉。低空気比燃焼、高効率発電により、環境負荷軽減に貢献。	2016年12月 受注 2016年～2022年 設備建設 2022年～2042年 設備運営



ECO WAY

【電力】 電力供給事業の安定収益化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
電力	神戸発電所 1,2号機 (株)コベルコパワー神戸	日本	2002年稼働の微粉炭火力超臨界圧発電設備。現行契約満了にあたり、契約を延長。 発電規模：140万kW（70万kW×2）	2002年4月 1号機操業開始 2004年4月 2号機操業開始 【延長契約期間】 1号機：2017年4月～ 2号機：2019年4月～
	真岡発電所 1,2号機 (株)コベルコパワー真岡	日本	国内初の本格的な内陸型発電所として国内最高レベルの効率での発電、都市ガス燃料のガスタービン・コンバインドサイクル設備。 発電規模：124.8万kW（62.4万kW×2基）	2016年6月 建設開始 2019年後半 1号機稼働予定 2020年前半 2号機稼働予定
	神戸発電所 3,4号機（仮称）	日本	最新鋭の発電技術である微粉炭火力超々臨界圧発電設備での発電 発電規模：130万kW（65万kW×2基）	2021年度 3号機稼働予定 2022年度 4号機稼働予定



ECOWAY

企業理念

【KOBELCOの3つの約束】

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

【KOBELCOの6つの誓い】

1. 高い倫理観とプロ意識の徹底
2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献

「品質憲章」

KOBELCOグループは、製品、サービスにおいて「信頼される品質」を提供するために法令、公的規格ならびにお客様と取り決めた仕様を遵守し、品質向上に向けてたゆまぬ努力を続けてまいります。

3. 働きやすい職場環境の実現
4. 地域社会との共生
5. 環境への貢献
6. ステークホルダーの尊重



将来見通しに関する注意事項

- **本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまいう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。**
- **上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。**
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化